

文芸きくち



万句の里俳句会 4月例会

咲くよりもすぐ散りたがる桜かな
芽柳のみどりの風と戯るる
花散らし香り纏ひて山椒摘む
総立ちの空を掴みて辛夷の芽
落椿嵩を踏みつつゆく小道

岩木 敬治
加藤 妙子
川口 二子
隈部 輝子
田中 美智

せせらぎ俳句会 4月例会

老いし今令和の花見あと幾度
通知表親子で数える二重マル
故郷や「あゝ上野駅」花の下
散り敷いて雨の舗道はさくら色
伊勢巡幸平成の春終りけり

藤本アツ子
森 正子
坂崎ユキ子
青木ユリ子
藤本 邦治

旭志文芸教室俳句の会 4月詠草

春雷に怯えし夜の布団かな
竹林に一報愉しや初音聞
仏前に草餅供え三回忌
花冷えや先祖の廟に香を焚く
家族から労わられつつ彼岸入り

水谷 ミネ
芹川 蓉子
稗田 達恵
中尾ヨシコ
芹川のり子

七城短歌会 4月詠草

用心し換える補聴器の電池我の束縛拒み逃げ落つ
止められぬ午後の一服ネスカフエ湯気たつ香りの虜となりて
風捕らえ腹ひるがえす鯉のぼり曾孫の三人仰ぎてはしゃぐ
朝を待ちハウスに入りてそれぞれ作物に顔寄せて語らう
空き家なる庭に赤紫に咲くすおうは主 恋うがに待ちいる

佐々 重弘
嶋田 晴美
緒方 寛子
緒方 正俊
高木 精

「里」短歌会 4月詠草

童謡の今も気になる「叱られて」あの子とこの子二人の里も
死化粧の母の口元やわらかくこの世の全てはらりと置きて
車窓から阿蘇の稜線眺むれば まつ毛の涙朝日に乾く
人知れず裏庭に咲く山桜風に舞い舞う白き花びら
今まさに小倉の山に入らんとす名残の時代の夕日よ赤よ

前原 ゆみ
坂本 玲子
潤井 梨江
林 淑子
宮本 淑子

溪流短歌会 5月詠草

クレマチス真白き花の大輪は五月の空に映えて咲きつぐ
広々と果てなく続く黒き阿蘇山脈はるか空に溶け合う
新元号令和となりて鉢植えの墨染桜めでたく開花
仕舞い置く一人暮らしの淋しさも時によき 雨後の竹の子
届かざる言葉の在庫を一齐に放てるがかに曾孫の泣き声

山城 雅子
岩根 博恵
田中 遙子
堤 よしみ
中川 愛子

菊池短歌会 5月詠草

朝もやに背丈伸びたる雑草の海を切り裂くエンジン吹かし
ドローンとふ名も働きも面白し政治的難癖つくるを止めよ
投げ上げるお手玉紅し初夏の空金縷梅真盛る峽の点景
閉す門もあらぬつましき居住ひの出入りに護憲のシール張りたり
雨粒の落ちて膨らむうたかたのはしけぬままに流れてゆけり

川口すみ子
古賀 勝士
中川 愛子
怒留湯健蓉
安藤 則子

【お詫びと訂正】広報5月号「菊池短歌会 4月詠草」の提供原稿に誤りがありました。正しくは次のとおりです。訂正いたします。
 〔誤〕我が阿修羅さへまどろみあむ春をひとつ忘れず辺野古の無惨
 怒留湯健蓉
 〔正〕我が阿修羅さへまどろみあむ春をひとつ忘れず辺野古の無惨
 怒留湯健蓉

万句の里俳句会
せせらぎ俳句会
旭志文芸教室俳句の会

井芹 ☎090(1342)2151
藤本 ☎0968(38)4087
中尾 ☎0968(37)2578

七城短歌会
「里」短歌会
菊池短歌会

佐々 ☎0968(24)3761
／溪流短歌会
木原 ☎090(5284)2418
古賀 ☎0968(25)1764

入会希望など詳しくは、それぞれの句会や歌会にお尋ねください。